

平成25年度 すぎなみ大人塾土曜コース
土曜の朝は、哲学しよう！ 自分の生き方を共に探る場づくり学
第2回：「哲学する問いを作り出す方法」
学習支援者：広石拓司（株）エンパブリック代表取締役

2013年6月8日（土曜日）午前10時から12時30分
於：セッション杉並

学習支援者 広石

おはようございます。第2回目ですね。来るのが楽しみになる講座にしようと思います。もし、哲学する気分じゃなくても来て、話してみてください。

前回は、対話を体験していただきましたね。「やったことないので難しかった。」この感想は多かったのですが、逆に話して気づいたこともあるでしょう。話が深まったこと、上手いかなかったこと。そのあたりも学んで頂けたら良いと思います。このような対話の場に、ファシリテーターやリーダーがいる時もありますよね。でも、上手な人にやってもらうと、その人がいないとできないとなりがちです。みなさん自身が、広げていって欲しいので、みなさんができるようになって欲しいんです。

これから、全員で対話してみようと思いますので、気づいたことをフィードバックして欲しいのです。対話ってこういうことなんだなと気付いたり、ここが難しいなと感じたら、どうぞ教えてください。いろんな方のご意見を頂きながら、進めていきます。

参加者の方には、哲学者を好きな方も集まりましたね。そういう話も盛り込んでいきたいです。哲学的な知識も深めていってほしいなと思います。まず、知識がないと前提として議論にふみこめない。ですから、一緒に学んで頂けたらと思います。知識を得ることが目的ではなくて、彼らが考えたことを自分で考えてほしい。デカルトは数学が真実と考えました。その数学が正しいと言い切れる理由を考えたのです。このような問いから全てが始まります。結局、デカルトがいきついたのは、自分の認識がゆるがないということ。すべてを疑ってみたけど、自分は揺るがないことに気付いたのです。しかし、私を疑わない根拠はどこかと後世批判されていますね。哲学は、他人と話すと吸収力がまずと思います。

さて、前回とは違うメンバーで組を作りましたので、まずは自己紹介をしてみてください。10分間の自己紹介です。今日は、自分のことを紹介するとともに、自分の好きなところと嫌いなところを添えて伝えてください。

グループ1

参加者

自分の良い所は、周りの反応を見ながら考えられることです。キライなところはありません。自分をキライと思うのは良くないので、キライと考えないようにしています。でも、直したいことはあります。

参加者

挨拶ができない人がキライです。挨拶は人と人のつきあいの最初だと思うからです。好きなところは、いろんな場所に出かけることです。世界中にいくのも好きだし、いろんな人とあうのが好きです。あと、なにかに凝る性格だと思います。

参加者

本気でものを考えるところが好きです。自分でずっと考えがちなんですが、頭を使っていると磨かれる感じがしてきます。キライなところは、本気で取り組まない人です。自分の嫌いなところは少し弱気になってしまう時があるところです。

参加者

誰とでも親しくなれるのは良いところだと思います。比較的、直感で動くほうなので、あまり深く考えないところが悪いくせかなと思っています。

学習支援者 広石

今日は、みんなで対話をしようと思います。自分とは何だろう？哲学的ですよ。最初に考えたいのは、「鏡の中の自分はどうして自分なんだろう」。そこから、対話を深めてみましょう。映像をヒントにして、鏡の中の自分を考えてください。1つ目は、化粧品CMです。鏡に向かって、女性が語りかけています。鏡の中の自分と話す時があると思いますが、それはいったい誰と話しているのでしょうか。次の動画です。猫が鏡をみています。最後の動画は、2歳の女の子が鏡をみて遊んでいます。彼女は、どのように思っているのでしょうか。猫はとまどっていましたね。

鏡の中の自分は、誰なんですか？鏡の中にあるものは何なのでしょう？どう認識しているでしょう。マジックで書いてみてください。イスと紙だけもって、真ん中に集まってみましょう。

参加者

思いつきで言っているいいですか。鏡の中の自分は、自分。自分がそう思っているからです。鏡は鏡。自分が、写っているのは自分だと思っています。

参加者

鏡には自分が写ると思っているから。自分が動くとき鏡も動くので、モノだと認識します。鏡の中の自分は自分ではありません。

学習支援者 広石

それでは、発表してみたい方は前にどうぞ。4人だけで話すのではないですよ。順番にいきます。

参加者

自分と同じ姿、動きをするから自分だと思います。共通意見の方が多かったです。

学習支援者 広石

でも、本当に自分なんですか。何を理由に自分と発見しているのでしょうか？

参加者

鏡って、そういうものなんだと経験からわかっていると思います。

参加者

反射の法則が幼少時から身につけているから理解できるのだと思います。物理的現

象という理解です。

学習支援者 広石

科学的裏付けで理解していますね。光は、行ったら返ってくる。科学的知識と経験があわさって認識していく。

参加者

他人だと怖いです。鏡に他の人が写っていたら怖い。他人じゃないので、自分なんだという理解をしていると思います。

学習支援者 広石

きっと自分だと思うという願望があるんでしょうね。

参加者

自分って何なのかを考えました。鏡の中にいる自分は、他人からみた自分。それが本当の自分とはわからない。自分しか知らない自分と他人からみた自分をミックスしたのが自分なのかな。

学習支援者 広石

自分の認識だけではなくて、第三者の視点が自分の中にも存在しているという意見ですね。こう見えていると言われているから、自分でもそう見える。元気がないといわれたら、そんなふうに見えているかなと思ってしまう。そういうことって、ありますよね。

参加者

見えていることは、まぎれもない事実。質問そのものに疑問があります。

学習支援者 広石

写っているのは事実。理屈ではなくて、事実。なんでこれを質問したのかというと、いろんなものの見方があることを伝えたかったんです。

参加者

他人から見える自分を鏡で認識するので、写真で見た自分と鏡で見た自分は違和感があります。

学習支援者 広石

写っているのは事実。猫は鏡の中にもう1人いると思っているようでした。鏡の中にいる自分を自分が見ている。鏡の中のものを客観的に見ているという意見ですね。

参加者

自分の顔と背中を見ることはありません。見た経験がないので、鏡をみることで、自分だと認識した方が良く理解しているのでは？

学習支援者 広石

自分で自分を見られないので、これが自分なんだと思いこむということですね。

参加者

白内障の手術した後、急にモノが良く見えるようになって、自分のしわと他人のヒゲが気になって仕方なかったです。ところが、しばらくしたら、気にならなくなりました。脳が調整したのでしょうか。

学習支援者 広石

科学的反射でみているものを、あらためて慣れや経験というフィルターで見ていると。

参加者

小さいときに経験して。これが自分だと思ったから、今でもそう思っています。

学習支援者 広石

最初は猫と一緒に戸惑うけど、やがて事実を受け入れる。自分がうけいれたから、認

識がうまれるんでしょう。

参加者

内なる自分と対話しているのではないのでしょうか。さっきの映像で女性が鏡の中の自分に問いかけていたように、自分で問いかけていると思います。

学習支援者 広石

うちなる自分と、物体としての自分。写っている自分だけではなくて、内なる自分が自分なのではという意見ですね。

参加者

私は自分を考えるときは、目をつむって考えます。鏡を見て、自分を見つめないです。

学習支援者 広石

内なる自分は鏡を見て、見えるのか？それとも、見なくても良いものか？鏡を見ていても、実は見ていないのかも。猫の方が、もっとよく見ているのかもしれないね。

参加者

ちょっと混乱してきていますが、自己肯定感というワードに行きつきました。自信がないときは鏡をみないですね。

学習支援者 広石

コミュニケーションをしているのですね。鏡を見て、自分を再確認しているのかもしれませんが。

参加者

電車の窓に写っている自分をみて、ハッとします。自分が思っている以上の自分が見えて驚くんです。ものすごく疲れた顔をしていたり、キレイにしているのにボサッと見えたり。自分が認識している以上の自分をみる機会なのかもしれません。

学習支援者 広石

意識して見るときと、パッと見える時は違いますよね。写っているモノは、別のモノなのではという視点もありますよね。

参加者

鏡を見る行為に重点をおいていたが、実は見ているときに考えていることの方が大事なのでは？頭の中の認識や考えなどが働いているわけですから。

学習支援者 広石

視覚的情報を得て、まず写っているかどうか。どう処理するのか。その情報をどう受け入れるのか。どうフィードバックするのか。実は、鏡の中の自分はどうして自分なのかというのは、自分を考えるきっかけになります。理想の自分をみているのか、経験の中で自分だと理解しているのか。いろんな意見が出てきたので、わけわからなくなったと思います。それを今度は考えてみましょう。鏡の中の自分と写真の自分ではどっちが良いのかなど、これまでの意見を踏まえて、気づいたこと、余計にわからなくなったことをグループで話してみましょう。

学習支援者 広石

素朴な疑問をもつことが、次の深まりになります。自分の問いをみなさんに聞きたい方がいたら教えてください。

(参加者より提案)はい、質問が集まりましたね。

- 1・鏡が嘘をついていたら、自分をどう認識するのか
- 2・鏡と自己肯定感の関係
- 3・自分としての自分 グループの中の自分
- 4・本当の自分の姿を写す鏡とは何なのか？
- 5・鏡の中の自分を問うのは、意味はあるのか？
- 6・どういう時に鏡を見るのか？

では、各テーブルに1人ずつ、質問された方は行ってください。みなさんは、話しあいたい質問のところへ移動してみてください。移動しましたね。では、開始してみてください

い。

対話の様子を一部、抜粋)

1・鏡が嘘をついていたら、自分をどう認識するのか

参加者

ウソをついていたら怖いなと思って、参加してみました。でも、鏡が正しい自分を出しているとは限りませんよね。そんなに信用して良いのでしょうか。

参加者

見ているものって、自分の頭の中で処理しているのですよね。言いたいことと考えていることに微妙なズレがあるように、見ているものと見えているものにギャップがあるのではないのでしょうか？このギャップがウソにつながるような気がします。

2・鏡と自己肯定感

参加者

鏡と自己肯定感の関係って、自分を再確認するという意味なのかな。

参加者

自分の目標を達成して、自分が満足する。これは自己肯定感につながるのでしょうか？自己満足になっているような気がします。

3・自分としての自分 グループの中の自分

参加者

グループの中の自分と、独りでいる時の自分の顔は違うと思います。家でいるときと、会社の顔は違うでしょう。

参加者

確かに、顔つきが違うと思います。なんで違うのでしょうかね。基本的な自分は変わらないはずなのに。違ったように見えるのでしょうか？

4・本当の自分の姿を写す鏡とは何なのか？

参加者

光を通すものであるのは間違いないけど、どんな鏡なら本当の自分に見えるのでしょうか？鏡ではないのかも。他人が自分を写すのは、あり得ると思います。

参加者

見ていない自分を見せてくれたら、本当の鏡なのかな。見えない部分が本当の自分。

5・鏡の中の自分を問うのは、意味はあるのか？

参加者

哲学的な質問なのかもしれませんが、そもそも鏡は何かを写すのは本当のことです。その本当を突き詰めれば科学になると思いますが、なんだか自分のことを考えていますよね。

参加者

鏡を見ていない方が、自分がわかるという意見はわかります。鏡ではなくても、自分を写すものがあれば、自分がわかると思います。写すものによって、自分の見え方も変化するのは。

6・どういう時に鏡を見るのか？

参加者

鏡に向かって話しかけることなんてしない。鏡は鏡なので、自分を見る時以外は使用しないと思うのです。

参加者

その人の鏡の認識や使い方によるのかもしれませんが、励ましたい時に見る人は見るし、確認する時に見る人もいます。日常の使い方だけではない、鏡との関わり方です。

学習支援者 広石

はい、だいぶ意見がでてきましたね。では、今の話を振り返ってみて、気付いたこと、解決していない疑問をグループで話しあってみてください。自分で気付いたことは、紙に書いてくださいね。

1・鏡が嘘をついていたら、自分をどう認識するのか

参加者

見え方や脳の認識、光の反射などもあるので、最終的には、科学的な実証になっていくと思います。自分で満足する見え方が、自分にとって正しいのでは？

2・自己肯定感

参加者

目標設定を達成した時の自分、他人からみた自分、他者と自分の相互作用の話ができました。ナンバーワンとオンリーワンの違いで、どちらが良いのか考えています。

3・自分としての自分 グループの中の自分

参加者

他人との関わり方によって自分の見え方も認識も変わると思いました。

4・本当の自分の姿を写す鏡とは何なのか？

参加者

鏡は、客観的に自分を見る道具や機会と考えましたが、そもそも、本当の自分って何なのかということで悩んでいます。

5・鏡の中の自分を問うのは、意味はあるのか？

参加者

鏡の中の自分を考えたことを、どう理解するかに意味があると思いました。鏡がなかったら、自分をどう認識するのか、他人からの見え方か、経験しかありません。

6・どういう時に鏡を見るのか？

参加者

鏡の使い方によると思います。写っているけど、自分ではない理想の自分や応援してくれる人と感じる使い方もあります。鏡は、たくさんある自分を分離して、自分を見るツールなのではないでしょうか。いろんな側面の自分を見て理解していくと思います。

学習支援者 広石

それぞれの質問について、みんなで意見を出し合ってきましたが、まだ解決はしていないのではないのでしょうか？あるグループは、話し合ったすえに分からなくなってしまって止まっていたね。それも、あることです。では、話しあってみて、わからなくなってしまった点をあげてみてください。(参加者より提案)3つ、あがりましたね。

1・本当の定義とは何なのか？

2・自分が自分であるために何が大切な存在なのか？

3・本当の自分って何？

では、今度はこの3つの質問について考えてみましょう。

(対話より一部を抜粋)

1・本当の定義とは何なのか？

参加者

人に見せない日記は自分の本当の姿だと思います。自分の本当は、他者の理解を求めていなくて、自分の中にあるのでしょう。

参加者

本当は変化していくと思います。自分の成長や他人との関わりあいの中で、作り上げられていくように思えます。経験や環境によっても、本当は異なるでしょう。

2・自分が自分であるために何が大切な存在なのか？

参加者

自分を大切にしてくれる他者をつくるのは、結局は自分。他人との接し方によって、自分への付き合い方も変わります。他者との経験値が必要なのでは？

参加者

必要な他者とは1人ではないはず。また、必要な他者がいないと自分を認識できないと考えるのも1つだと思う。他人の意見をどこまで受け入れるのか、あまりに受け入れると自分がなくなってしまうのではないだろうか。

3・本当の自分って何？

参加者

鏡がなかったら、自分を認識するのは難しいと思います。自己認識に、どう役立つのかは分かりませんが、鏡はキッカケの1つ。鏡以外でも写すものがあると、自分を理解しやすいと思います。

参加者

自分を考えるためには、他者からの見え方や文化に影響されるのではないのでしょうか。人間として自分を見るには、自分の経験が元になりますが、自分だけの情報量では足りないと思います。

学習支援者 広石

自分とは何なのかを考えるために、鏡を提案してみました。存在論、認識論、観念論、

いろんなモノの捉え方があると気付いたと思います。「本当は何か」を考えるよりも、もっと現実的に生きようよ。こんな動きも哲学的な流れの中でありました。ただ、問いは自分を考えるキッカケになります。

変わっていく自分に、「どう向かっていくのか」、「これはどうして」と考えるのが哲学です。小さく疑問に思ったことは、他人も考えています。まったくのオリジナルかもしれませんが、過去にも考えた人がいるかもしれません。

お渡しした資料の中で、過去の哲学者が考えたことをまとめてあります。過去と今では、疑問の内容が違う時もありますし、答えも異なると思います。哲学は、対話をしながら生まれていきます。いろんな視点がありましたよね。

今日出た考えも、今の自分の学びとして書いてみてください。答えがでなくてもOKです。自分なりの今日の答えをシェアしてください。

2時間の対話でしたが、振り返ると、問いかけ、問いかけを考え、参加してもらって考えを共有していき、また問いかけをする。この繰り返しです。ただの会話だと話がすみませんが、対話だと考えるキッカケになります。考えるキッカケをつかっていき、自分の気付きを思い出していきます。議論が深まっていく瞬間を身体で覚えてください。次回は対話のプロセスや問いかけの方法を学んでいきます。今日はおつかれさまでした。

